

大津市立葛川小学校

令和2年度
エコ・スクール活動報告書

活動テーマ

身近な自然。自分たちでできること。

実践事例について

本校は、大津市北部葛川地区に立地し、豊かな自然を生かした学習を進めている。地域の森林を学校林として活用したり、目下を流れる安曇川を生かした琵琶湖学習に取り組んだりするなど、子どもたちは身近な自然を題材に学習を進めた。また、地域のために小中合同で清掃にいく取組も毎年行い、よりよい環境を作るための活動を行っている。

1 学校紹介

本校は、安曇川上流部にある小中学校が併設されたへき地校である。平成30年度より、小規模特認校制度の認定を受け、地元だけでなく、大津市在住の児童生徒が通える学校となった。市街地から通う子どもたちは、堅田駅からスクールバスを利用して通学している。学校には、水田や畑があり、近くの森林の一部を学校林として活用し、子どもたちは自然を題材とした活動を行っている。また、過疎化が進み学校閉校の危機を救おうと始まったKCLプロジェクト(K: know 知ってもらう。C: come 来てもらう。L: live 住んでもらう)を軸に学年に応じた取組がなされている。

2 エコ・スクールの取組

(1) 学校林活動



校区にあるアシビ谷付近の森林を学校林として活用し始めて10年が経過した。学校林には、スギやヒノキ、ケヤキ、ヤマザクラなど植林させ、滋賀南部森林組合の協力の下、管理されている。子どもたちは年2回、小中学校全員で学校林に行き、下草刈りや枝打ち、冬支度などを行っている。また、小学生は、学年に応じて学校林を生かした学習を進めている。

令和2年度 学校林活用計画

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
1学期	教科(生活) 学校林に行って、どんなところか、何があるのかを1年生に知らせる。 教科(国語)「かんざつお人なろう」 学校林で見つけた植物を観察し、カードに記入する。	教科(理科) 春のしぜん(はらひ出そう) 教科(総合) 葛川森林調査隊 教科(理科) どれくらい育ったのかな	教科(理科) 教科(総合) 春のしぜん(はらひ出そう) 教科(総合) 葛川森林調査隊 教科(理科) どれくらい育ったのかな	教科()	教科(総合) 昨年育てたツツジやサクラの成長の様子を記録し、観察日記に記入する。	教科(理科) 秋のしぜん(はらひ出そう) 教科(総合) 葛川森林調査隊 教科(理科) どれくらい育ったのかな	教科(理科) 秋のしぜん(はらひ出そう) 教科(総合) 葛川森林調査隊 教科(理科) どれくらい育ったのかな
2学期	教科(生活) 木の葉を使ったおもちゃ作りを学校林にある物を使ってする。	教科(生活) 木の葉を使ったおもちゃ作りを学校林にある物を使ってする。 多くの老人クラブや伊豆立降草履の会の来校訪問を説明し、一緒に遊ぶ。	教科(理科) 葉ができたよ。 教科(総合) 葛川森林調査隊	教科()	教科(総合) 「森林はわたしたちの暮らし」 森林がわたしたちの暮らしを支えている。環境保護と関係性を学ぶ。 教科(総合) 秋のしぜん(はらひ出そう) 教科(理科) どれくらい育ったのかな	教科(総合) 「森林はわたしたちの暮らし」 森林がわたしたちの暮らしを支えている。環境保護と関係性を学ぶ。 教科(総合) 秋のしぜん(はらひ出そう) 教科(理科) どれくらい育ったのかな	教科(総合) 「森林はわたしたちの暮らし」 森林がわたしたちの暮らしを支えている。環境保護と関係性を学ぶ。 教科(総合) 秋のしぜん(はらひ出そう) 教科(理科) どれくらい育ったのかな
3学期	教科()	教科()	教科()	教科()	教科(総合) 秋のしぜん(はらひ出そう) 教科(理科) どれくらい育ったのかな	教科()	
備考							

特に、5年生は昨年度に学校林の樹木を調べた際に、メープルシロップの原料が採取できる「ウリハダカエデ」が植生していることを発見した。そこで、今年度は、KCLプロジェクトの一つとしてメープルシロップを商品化する取組を開始した。「メープルシロップの旅」と題し、どうすれば原液を採取できるのかを調べた。すると雪が降る2月に樹液が最も採取できることが判明した。そこで、秋のうちにいくつかあるウリハダカエデの樹高や直径を採寸し、どれくらいに成長すれば最も効率的に樹液が採取できるかを調査できるように準備した。今年度、冬季に再度入山し、樹液を採取しそれを元にメープルシロップの試作品を作成する予定である。



(2) 樹木栽培



学校林活動の一環として5年生が取り組んでいるメープルシロップ作り。子どもたちは、原木であるウリハダカエデの木の下にたくさんの種が落ちていることを発見。この種から樹木を育てられないか実験することにした。5年生は種をたくさん学校に持ち帰り、ポットに播種した。それと同時に、森林組合から地域にある「ポポー」と「トチ」の種をたくさん見つけたので学校で育てないかという提案をいただいた。そこで、全校でそれらすべての種を播くことにした。これらの樹木の種は寒冷をあたえる必要があるので、冬は種のまま過ごす。春になり発芽すれば、苗木として育て、学校林に植林する予定である。



(2) 校内田んぼ



本校には、小さな水田がある。そこを利用して毎年5年生が苗から栽培をしている。しかし、葛川地区は、シカやサルによる農作物の獣害被害が多く、本校でも、過去3年間、収穫前に稲穂がすべて食害され収穫できないことが続いていた。今年度は、何とか収穫できないかと地域保護者から意見をもらい、5年生児童と教職員で単管パイプ等を用いて獣害防止柵を設置した。そして、稲の成長期には、何度か追肥を行い、その結果、9月にたくさんの米を



収穫することができた。

10月には、その米を利用し、防災学習を行った。本校は、災害によりライフラインが不通になることがある。そのようなときでも、学校にある物で食料を確保し、生活できるように、全校で学習した。七輪やカセットコンロを用いてお米とカレーを加熱し、新聞紙を使ってお皿を作り食事をした。ご飯は飯ごうで、カレーはポリエチレンの袋にツナ缶やベジタブルミックス具材を入れ温めて作った。水などが確保できない状況でも食事ができることで子どもたちの防災意識も高まったと考える。



(3) 校内農園

本校には、二畝の畑がある。この畑は地域の老人会の協力の下管理されている。毎年、低学年はサツマイモを植え、その他の学年は、なすやキュウリ、トマト、ピーマンなど色々な作物を栽培している。

令和2年度 学校農園作物一覧

1、2年	3年	5年
サツマイモ トマト ナス パプリカ キュウリ	ピーマン オクラ	キュウリ メロン ナス トマト ピーマン インゲンマメ

今年度は日照不足もあり作物の成長も心配されたが、子どもたちは肥料をあげたり、下草を取り除いたりする作用をこまめに行い、たくさんの野菜を収穫することができた。また、サツマイモは秋



に地域の老人会の方と一緒に収穫した。とれたサツマイモは、老人会の協力のもと、たき火をおこし、それを利用して焼き芋にして食した。全校で、秋の実りを感じることができたことで子どもたちも大変喜んでいて。

(4) グリーンカーテン



1年生が生活科でアサガオの栽培をした。1年生の教室は南側に窓があり、日中直射日光が入り高温になることがある。そこで、このアサガオを用いてグリーンカーテンに挑戦した。階上の5年生が、カーテン用にロープと網を準備し1年生の教室



が隠れるように張り巡らせた。そして、アサガオの苗を大きなプランターに植え替えた。世話の仕方でも5年生が1年生に伝えた。毎年、葛川は谷間にあることで日照時間が短いことからアサガオの成長が弱くしっかりしたグリーンカーテンを作ることはできなかったが、上学年が下学年と協力して取り組めたことや環境への意識付けはできたと考える。

(5) メダカ栽培



5年生は、理科の学習で魚の誕生について学習した。一人1水槽を用意し、その水槽にいろいろなメダカを放した。子ども

たちは、エサやりや水替えなど各自で行った。あたたかくなるとメダカは一斉に産卵を開始。採卵も自分たちで行い、観察した。すると、孵化する瞬間にも遭遇し、子どもたちは命のありがたさを実感することができた。稚魚のエサとしてゾウリムシを栽培しあたえることもした。ゾウリムシは自ら細胞分裂し増えることから持続して増やすことができる。子どもたちは、市販品をあたえるだ

けでなく、エサも自分たちで作ることも学ぶこともできた。このことから、他の魚にも挑戦したいという思いがわき出てきた。

(6) びわ湖学習

①びわ湖の魚調査



本校の5年生は琵琶湖学習として、びわ湖の魚について学習した。実際に、びわ湖水系の魚を飼育し、観察を続けた。種類によっては、婚姻色を発するものもいて、子どもたちは興味を持って世話をした。秋には、堅田漁港に見学に行ったり滋賀県琵琶湖環境部の協力のもと、釣り体験を行ったりした。その際に、現在のびわ湖は昔よりも外来魚は減少傾向にはあるがまだまだたくさん生息していることや、固有種は絶滅危惧種になるなどを学んだ。実際に釣り体験を行っても釣れるのはブルーギルだけで在来種を確認することができなかったほどである。このことから、琵琶湖を昔のようの戻すためにはどうすればいいかと考え、メダカの学習で経験したことを生かして、これらの魚を増やすことに挑戦した。びわ湖



に生息するカネヒラは夏から秋にかけて産卵することから、二枚貝を用意し、産卵実験を行った。実際稚魚が生まれてくるかこれからではあるが、子どもたちは大変楽しみにしている。また、学校前を流れる、安曇川の生態についても調査した。安曇川には、アユやアマゴ、イワナなどが生息している。そのほかにどのような魚がいるのかも調



べた。するとカワムツやアブラハヤなど確認することができた。きれいな水に生息してる魚たちである。子どもたちは、びわ湖学習だけでなく、4年生の時

に学習した森林学習から、森林を守ることで琵琶湖の水を守れることも気づいていた。

②びわ湖の水質調査



5年生は実際にびわ湖に行き、パックテストを行い、びわ湖の水環境について調査した。子どもたちの予想よりも

透明度もあり、きれいだと感じていた。これと同時に、学校前の安曇川についても調査を行った。すると、びわ湖に比べてCODの数値が低いことがわかった。このことからびわ湖の水の水源である安曇川等の河川がびわ湖の水質を守るために重要であると感じることができた。



(7) 稚魚放流



本校では、葛川漁協や滋賀県河川漁業協同組合連合会の協力のもと、アマゴやアユの稚魚の放流を行っている。今年度は、

アユの稚魚を安曇川に放流した。始めに、琵琶湖の魚について、県職員の方から説明を受け実際に魚にふれるなどふれあいを行った。その後、安曇川河川敷に移動し、全校でアユの稚魚を放流した。子どもたちは、放流したアユが大きくなることを願って泳いでいるアユの姿を見つめていた。このように、地域と共に安曇川の生態系を維持できる取組を今後も続けていきたいと考えている。



(8) 地域清掃

本校では、夏と秋の年2回小中学校全校で校区に出かけ、清掃活動を行っている。夏は、地域行事である太鼓回しの時期に合わせて、会場となる明王院や地主神社周辺を、秋は各地域の公民館周りや社寺周辺を行う。今年度は、夏の清掃活動は中止となったが、秋の活動は実施した。各地域に分担された子どもたちは、落ち葉や公民館内部の清掃活動に励んだ。この活動で、地域からも感謝の言葉をいただき、子どもたちも大変喜んでいる。学校の運営に多くの力添えをいただいている地域に恩返しができないかという気持ちと自分たちで地域の環境・美化を守っていこう姿勢が毎年現れ、子どもたちから「きれいになってよかった」という声もあがりうれしく思っている。



3 終わりに



本校は、葛川久多の自然を生かした数多くの取組が行える立地条件を生かして、年間を通してカリキュラム編成を行っている。今年度も、学校林活動を主として、

各学年で栽培活動など取り組むことができた。子どもたちは、環境に目を向けることが日常であり、少人数の利を生かしてたくさんの体験活動を行うことができた。五感を使った活動は、子どもたちに取って非常に有益であると考えている。今後も、地域と共に、子どもたちが自らの手で自然環境を生かした学校を作っていってほしいと考えている。

学校名	大津市立葛川小学校
住所	大津市葛川中村町108-1
電話番号	077-599-2154
E-mail	Ktr-e@otsu.ed.jp